令和5年度

生物基礎

11　新潟翠江高等学校（通信制）

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験回数
選択必履修	2	6	8	2

教　科　書	学習書・副教材等
新編　生物基礎（東京書籍）	学習書：新編　生物基礎（NHK出版）

学　習　目　標

日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生命現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに必要な基本的な技量を身につける。また、生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。

学　習　内　容　と　学　習　計　画

1編　生物の特徴（第1回レポート）
2編　遺伝子とそのはたらき（第2・3回レポート）
} 前期試験範囲

3編　ヒトの体の調節（第4・5回レポート）
4編　生物の多様性と生態系（第6回レポート）
} 後期試験範囲

学　習　方　法

・レポート
教科書に沿って学習し，内容を理解することができるように，レポートの問題は基礎，基本的なものが中心となっています。学習書なども利用し，レポートの課題をこなすだけでなく，幅広い知識を身につけ，理解を深めるようにしましょう。

・授業
授業では，レポートの内容にかかわる重要な法則の説明や例題の解説等をします。事前にレポートの問題を解答し，不明な点や疑問点を明確にしておいた方が，授業の内容を理解しやすいと思います。

・校外授業と放送視聴
学校での授業のほかに，校外の生物関係の施設見学をしたり，NHKＥ テレの「高校講座　生物基礎」を視聴してレポートを書くことで，授業への出席に代えることが出来ます。上手に活用して，必要な出席時数（8時間以上）を満たすようにしてください。

・試験
試験にはレポートの学習内容を確認する問題を出します。改めて教科書・学習書を調べ直す必要はありませんが，レポートの内容や計算方法等を理解してきてください。

評　価　規　準　と　評　価　方　法

レポートの評価，授業の出席状況，試験の成績などを総合して評価します。
レポートの評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物や生命現象に対する概念を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験などの基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生命現象の中から課題や仮説を設定し、観察、実験などから得られた結果を科学的に考察し、根拠を基に導き出した考えを表現している。	生物や生命現象に関する事項に対して主体的に関心を持ち、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。

担　当　者　よ　り　一　言

この科目では，生物や生命現象について学習します。レポートや授業でわからないところは，遠慮せずに質問してください。